

# 慈恩寺中だより

学校教育目標「自主自立をめざす生徒」 キーワード「努力夢現」「挑戦と煌」

## 創立80周年「共に歩み、共に煌く」

校長 高波 國夫

慈恩寺中学校は今年、創立80周年という大きな節目を迎えました。戦後の混乱期に産声を上げ、地域とともに歩み続けてきた本校の歴史は、まさに「共に歩み、共に煌く」という言葉そのものです。仲間と支え合いながら未来へ進む姿、一人ひとりが自分らしく輝く姿、その積み重ねが80年の歴史を形づくってきました。

この夏、生徒たちは地域の中で学び、挑戦し、輝きました。岩槻工業団地事業共同組合（加盟数日本3位）と連携し、「彩の国オープンファクトリー2026 in 岩槻」では7名の生徒が企業を訪問し、働く方々へのインタビュー撮影に挑戦しました。さらに、慈恩寺観音四万六千日大祭での吹奏楽部の演奏、地域のお祭りやサマースクールなどでの延べ80名のボランティア活動など、地域の方々からいただいた「中学生に手伝ってもらって、助かった」という言葉は、80年の歩みが今も確かに息づいている証です。

部活動や各種大会でも、生徒たちは自分の可能性を広げました。男子バレーボール部・バドミントン部・ソフトテニス部・剣道部が県大会へ進み、硬式テニスでは〇〇〇〇さんが関東大会3位となり、全国大会に出場しました。吹奏楽部は「さいたま市吹奏楽コンクール」で最後の舞台に全力を注ぎ、〇〇〇〇さんはニュージーランド派遣事業に参加しました。英語暗唱・弁論大会には5名の生徒が参加し、「ストップいじめ！子どもサミット」では〇〇〇〇さんが堂々と自分の思いを伝えてくれました。記録的な猛暑の中、新チームでの練習や受験勉強に励む姿も含め、努力を積み重ねた生徒たちの姿は、まさに「共に煌く」慈恩寺中の象徴です。

さらに、この夏は本校にとって特別な出来事がありました。〇〇〇〇教諭が女性として初めて甲子園の審判を務められました。高校野球の聖地で女性審判として立つためには、長年の挑戦と努力の積み重ねがあってこそ実現できるものです。〇〇先生の姿は、夢を夢で終わらせない「努力夢現」の精神そのものであり、生徒にとって大きな励ましとなりました。

また、学校環境の整備も進み、学びの場はさらに豊かになっています。青少年育成慈恩寺地区会の皆様による50周年記念「希望の像」の環境整備、教室の床張替え、桜の木の剪定、そして校舎外壁に掲げられた80周年記念スローガン。これらはすべて、生徒の未来を支えるための「歩み」です。

この2学期が、生徒一人ひとりにとって「夢が動き出す学期」となるよう、教職員一同、温かく見守りながら支えてまいります。創立80周年の節目にふさわしく、「共に歩み、共に煌く」慈恩寺中学校を地域とともに築いていきたいと願っています。今後とも、学校へのご理解とご協力をお願いいたします。

